

関運局、萬運輸を査察

安全への取り組み評価

【神奈川】関東運輸局は12日、年末年始の輸送に関する安全総点検の一環として、萬運輸（東海林憲彦社長、横浜市鶴見区）の本社と横浜営業所（同区）を訪

問し、取り組み状況などを査察した。

新田慎二局長のほか、勝亦政幸・自動車技術安全部

次長、尾林信二・神奈川運輸支局長らが訪れた。萬運

輸側は東海林社長、荒木俊彦取締役専務執行役員、亀山清雄取締役常務執行役員らが立ち会った。

新田氏は「中継輸送や高度な運行管理の取り組みをしていると聞いている。本日はそうした安全輸送の取り組みを拝見したい」とあいさつ。

続いて、東海林氏が事業概要を説明した上で「エッ

センシャルワーカーの一員として運送事業者が社会の期待に応えられるよう活動



を続けていく。今日の指導を今後の活動の糧にした」と述べた。

新田氏らは横浜営業所で乗務前点呼やドライバークの健康状態チェックの実施状況、タイヤ脱落事故防止に向けたトルクレンチによる増し締めなどの点検・整備状況を確認。同営業所の担当者から説明を受けた。また、同社が行っている

中継輸送などについて新田局長に説明する東海林社長（左から2人目）

関東―東北の中継輸送専用車両、脱着可能なセパレートボディ車、安全運行のPRのため子供の絵を車体に描いたデザイントラックについて、車両を前に東海林氏が説明。効率化や働き方改革、人材確保へのメリットを強調した。

尾林氏は「全体として、経営トップの強いリーダーシップにより真摯に取り組んでいることが確認できた。安全性向上への積極的な活動は特に評価できる」と講評した。（吉田英行）